

エネルギー（人、モノ、金、情報）が集まる、魅力あるまち 武蔵野

～経済活性化を産む「武蔵野産業・文化」づくり～

これまで述べてきた3つの柱、「広報の新基軸の構築」、「美しいまち、より良い環境づくり」、「福祉、教育の武蔵野モデル創造」のいずれもが、経済活性化を産む「武蔵野産業・文化」づくりの基盤となるものと考えられる。

活力ある武蔵野とするためには、エネルギー（人、モノ、金、情報）が集まる、魅力あるまちとならなければならない。そのために、産業の活性化と特色ある文化づくりが必要となる。

〔提言〕 特色ある産業、文化をつくり、すぐれた人材を育成・誘致する。

観光・産業・文化が、バランスよく調和して発展しているヨーロッパの優れた歴史的な地方都市をイメージして、さらに日本の優れた伝統文化を洗練された形で発展させ、加味して「武蔵野産業・文化」づくりをする必要がある。その戦略としては、「未来型都市建設」の見地から、世界の好事例を比較研究し、成功の要素を洗い出して武蔵野市の長所を生かす形で具体的施策を展開していく。また、テーマのある都市づくりを行い、そのことを効果的に広報し、常に、経済活動を産む本物づくりを目指していく。さらに、未来型社会のライフスタイルとマッチした企業や人材を育成し、誘致することも重要である。

そこで、以下のとおり具体的な施策を提案する。

施策提案

テーマのある都市づくりのために、市内の事業所に協力してもらい、活性化プロジェクトを立ち上げ、武蔵野市ならではの特色ある「名産品（ソフトも含めて）」を作り、武蔵野ブランドとして、全国に発信する。そして、「このテーマなら武蔵野へ行こう」と全国の人が思うようにしていきたい。まちの再開発の際の土地利用についても、常にテーマを決めることにより効果的に活力が生み出されるような、まちづくりのランドデザインを策定する。

国内外の姉妹友好都市との連携をさらに強化し、ネットワークを組み、特色ある都市づくりを共に推進していく。

武蔵野市の知的財産の活用・確保をはかるため、将来有望な次世代の文化の担い手を誘致する。例えば、公募による武蔵野文学賞などの創設や、地域の資源（施設や人材）を活用した美術、音楽、演劇の登竜門となるプロジェクトを立ち上げる。

まちづくりのテーマを鮮明に打ち出し、やる気のある企業を市内に誘致する。また、武蔵野市の特性を生かし、これからの社会でますます重要となるワーク・ライフ・バランスを実現するものとして、テレワーク・ステーションとしての武蔵野の機能を確保し、社会的に意識の高い優良企業を誘致する。